

うた
歌うガイコツ

むかしむかし、ある国くにの大きな森おおもりに、それはらんぼうなイノシシすが住んでいました。

そこで王さまおうは、イノシシをたおした者ものとお姫さまおひめを結婚けっこんさせるとおふれを出したのです。

それを聞いて、まずしい二人ふたりりの兄弟きょうだいが名乗り出ました。

心こころの優しい弟やさは東おとうとから、なまけ者ひがしのお兄さんなまけものは西にいから森へ入にしって行もりきました。

弟おとうとが森もりをすすんでいくと、黒いヤリくろを持った小人もが出てきました

「さあ、これを心こころの優しいおまえやさにやろう。もって行いきなさい」

弟おとうとが小人しょうにんにお礼おれいを言いって歩あるき出だすと、間まもなくイノシシがあらわれました。

イノシシは自分じぶんからヤリむに向かって飛とびかかり、そのヤリしんぞうで心臓しんぞう(しんぞう)をひと突つきすると、あっけなく死しんでしまいました。

さて、西にしから森もりに入はいっていったお兄さんにいは、途中とちゅうのお店みせでお酒さけを飲のんでいました。

ところが、イノシシをかついで帰かえってきた弟おとうとを見みてくやしがり、

イノシシをよこどりするかんがことを考えました。

夜よるになるまで弟おとうとにお酒さけを飲のませ、暗くらい橋はしの上うえでなぐって殺ころしてしまいました。

お兄さんにいは弟おとうとを橋はしの下したにうめると、イノシシを取とって、王さまおうの

も かえ
ところへ持って帰りました。

じぶん たお おひめ けっこん
そして自分がイノシシを倒したとうそについて、お姫さまと結婚した
のです。

なんねん す とき か はし わた
何年か過ぎたある時、ヒツジ飼いがあの橋を渡りました。

した かわら すな なか ゆき しろ ほね み
そして、下の河原の砂の中から雪のように白い骨を見つけると、それ
をひろって笛(ふえ)を作りました。

ふえ つか ふえ うた はじ
ところが、その笛を吹こうとすると、笛はひとりでに歌い始めました

。

あに ころ
♪兄がわたしを殺し

きょう した う
♪橋の下に埋めました

♪イノシシをよこどりして

おひめ けっこん
♪お姫さまと結婚しました

ふしぎ おも か ほね おう も
不思議に思ったヒツジ飼いは、骨を王さまのところへ持っていきまし
た。

ほね うた うた おうほんとう し
すると骨は、またさっきの歌を歌い、王さまは本当のことを知りまし
た。

わる にい ころ おとうと ほね ぜんぶ きょう した
悪いお兄さんはすぐに殺され、そして弟の骨は全部橋の下から

だ うつく はかいし した
ほり出されて、美しい墓石の下にほうむられました。